

平成25年度 事務事業評価調査〔ソフト事業〕

事務事業コード

32131008

平成25年度作成

平成24年度
実施事業

事務事業名

酪農ヘルパー事業補助金

区分	No	名称
章	3	大地に根ざしたたくましい産業が躍動するまち
節	2	自然を活かした産業の育成
施策	1	特色ある農業・漁業の推進
小分類	3	ゆとりある酪農・畜産経営の促進
主要な施策	1	①新規就農者、担い手農業者への支援
事務事業番号	008	事業開始年度 平成 10 年度 事業終了年度 平成 ー 年度 会計種別 一般会計

部 名	観光経済部	グループ名	農林水産グループ
-----	-------	-------	----------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	酪農は、乳牛を相手にするため365日休むことなく労働する必要があるが、酪農家が病気等でどうしても農作業を行うことが出来ない時にヘルパーが代わって作業を行うもので、酪農ヘルパーの普及に取組む団体の活動を支援することにより、酪農経営の安定的な発展と酪農家の生活環境の改善を図ることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成24年度の実績を具体的に記入してください)
	酪農ヘルパー事業の普及、ヘルパー要員の研修・確保を行う伊達市酪農ヘルパー利用組合に対して補助を行った。 【事業実績】 ・加入農家数：9戸 ・利用延べ回数：171回
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	酪農ヘルパーの利用を促進することで、定期的休暇の取得を図り、近代的酪農経営の進展を目指す。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	登別市農林業等振興補助金交付要綱

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H23年度 決算	H24年度 決算	H25年度 当初予算	H26年度 見込	H27年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円	720	539	348	400	400
事業費 合計			720	539	348	400	400

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	23年度 実績	24年度 実績	25年度 目標	26年度 目標	27年度 目標
成果 指標	① ヘルパー利用回数	回	目標値	110	110	110	110	110
			実績値	115	171			
	②		目標値					
			実績値					

比較 《 Check 》

<p>平成24年度実施以前又は実施中に見られた課題、問題点等</p> <p>酪農経営は、家族経営が主体で、家族の病気や怪我により農業規模の縮小や離農の可能性があった。</p>	<p>左記の解決に向け行った取組や対策、工夫等</p> <p>酪農ヘルパーの利用により、酪農家の離農の回避や定期的な休暇を取得することにより、生活環境の改善と農業後継者育成が図られている。</p>
---	--

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《 Check 》

1. 事務事業の妥当性について			
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市が主体に行うべき事業である ② 民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である ③ 国、道、他団体等との連携や広域化が可能である ④ 国、道、民間等の事業と重複・類似している	判断理由及びその他所見 酪農経営の安定的な発展と生活環境の改善向上を目指すために市が行うことが妥当と考える。
2. 事務事業の必要性について			
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 市民、団体等から具体的な要望がある ② 市民アンケートの結果から必要性が高い ③ 社会情勢、地域事情等から必要性が高い ④ 市民の大部分が関連することから必要性が高い	判断理由及びその他所見 搾乳作業等周年拘束性が強い酪農経営における労働負担の軽減及び休日の確保を図り、ゆとりある酪農経営を実現するためには、搾乳作業等を請け負う酪農ヘルパーの普及・定着を推進する必要がある。
3. 事務事業の効率性について			
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	<input type="radio"/>	① 低予算、少労力で高い効果をあげている ② 市で実施するほうが民間委託より効率性が高い ③ 多額の経費や労力を要するがやむを得ない ④ 将来的に効率性を向上できる	判断理由及びその他所見 毎年、ヘルパーの利用回数異なることから、適宜、補助金額の見直しを行い効率性を高める。
4. 事務事業の成果について			
目的を達成するための成果はあがっていますか？	<input type="radio"/>	① 成果指標の向上が見られる ② 市民、団体等の声から成果を感じられる ③ 目に見える形で成果があがっている ④ 成果の把握は困難である	判断理由及びその他所見 酪農ヘルパーの利用により、病気や怪我による急な休暇所得にも対応でき、廃業する酪農家は無く、ヘルパー事業の意義は大きい。

①担当グループによる評価 《 Check 》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	酪農ヘルパーの利用により酪農家の事故などによる廃業の回避や定期的な休暇を取得することにより、生活環境の改善と農業後継者育成が図られている。
-----------	----------------------	---

②行政評価会議による評価 《 Check 》

維持	備考	
-----------	----	--